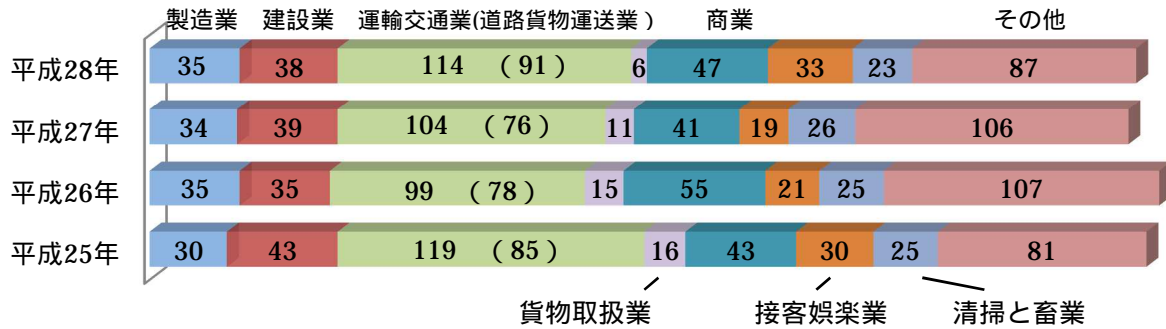


緊急事態！

労働災害が増加しています

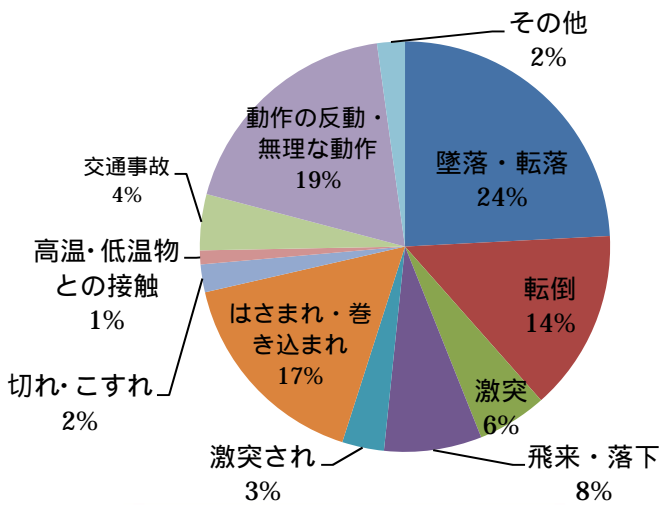
～ 道路貨物運送業で急増！ ～

平成28年9月までの休業4日以上の労働災害を見てみますと、全産業で増加しており、中でも道路貨物運送業が突出して発生しています。

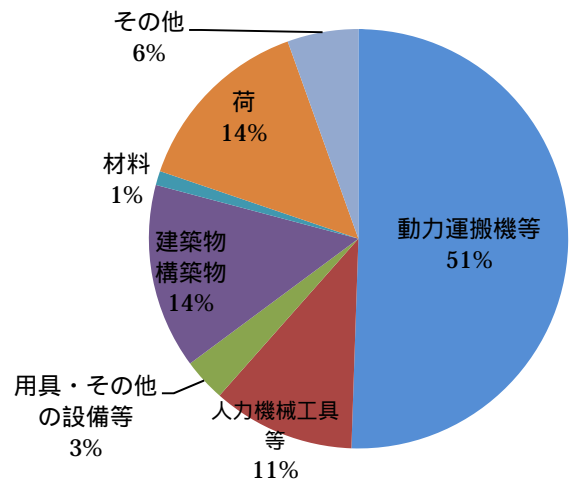


9月末日現在の労働者死傷病報告による（平成28年は速報値）

道路貨物運送業で多く発生しているのが、トラックの荷台やプラットホームからの転落で、荷の運搬時の腰痛災害、トラックのあおりや、荷物などによるはさまれ災害と続いています。また、自社内のみならず、荷主先での労働災害も多く発生しています



事故の型別労働災害発生の割合



起因物別労働災害の発生割合

労働者死傷病報告による速報値（平成28年9月末日現在）

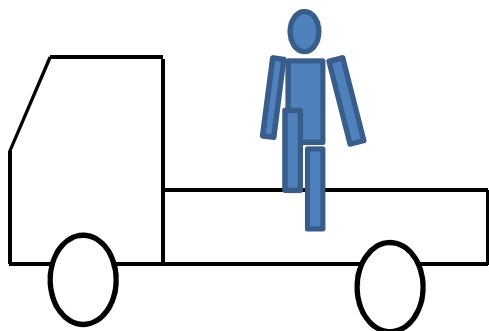


あってはならない無言の帰宅・死亡災害ゼロ

東京労働局では、労働災害防止中長期計画である「第12次労働災害防止計画 Safe work TOKYO」を展開、平成28年度は「4th Stage」と位置付け、「安全・安心な首都東京の実現」に向けた、取り組みを行っています。その取り組みを確実なものとするため、亀戸労働基準監督署では「あってはならない無言の帰宅・死亡災害ゼロ」を合言葉に、労働災害撲滅に向けた取り組みを日々推進しています。

あなたの職場は大丈夫？

～日々の作業を見直しましょう！～



荷台への昇降はそのトラックにあった方法で

低く見えても飛び降りない！

足首のくじきや、踵の骨折が発生します。

昇降設備を使おう！

移動式昇降設備や、移動式のプラットフォームなど、墜落防止設備の使用により、労働災害発生リスクを低減できます。

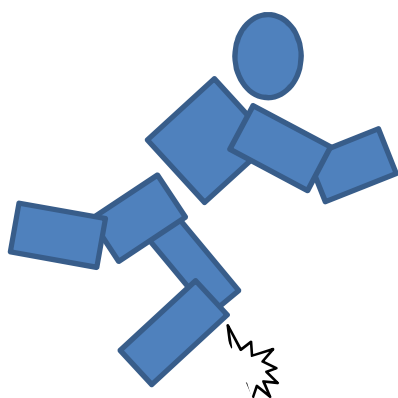
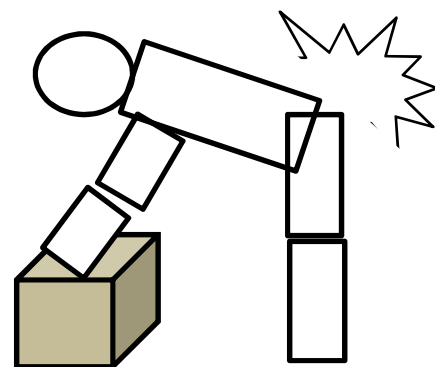
荷の形状・重量にあった作業姿勢を

運搬は体をよくほぐしてから！

腰痛体操などの実施は、急な作業の体への負担を軽減するとされています。

重量を確認しよう！

著しく軽い荷物や、著しく重い荷物は、力の入り方が極端となり、腰痛災害が発生しやすくなります。



急ぐ時ほど、あわてずに

足元注意！

あわてると視野が狭くなり、歩きなれた通路でも転倒するおそれがあります。

凍結にも注意を！

冬季は、積雪や路面の凍結などにより、さらに転倒のリスクが上がります。気象情報に気を配り、早めの対策を心がけましょう。

労働災害防止対策の参考となる資料については、厚生労働省ホームページに多数掲載されています。是非ご活用ください。